

第7章 プロジェクト・ドキュメントの別添資料

7 - 1 関係資料

7 - 1 - 1 ワークショップ報告資料

(1) 概要

2001年11月6日と7日の2日間にわたり、本件関係者である鉱業・エネルギー・水利省（Ministère des Mines, de l’Energie et de l’Hydraulique : MMEH）、地方給水施設維持管理担当及び村落住民の参加を得て、PCMワークショップがJICAセネガル事務所会議室において実施された。このワークショップでは、問題分析、目的分析を中心とし、参加者分析も一部行われた。

(2) 参加者

ワークショップ参加者は以下のとおりである。

1) MMEHスタッフ

維持管理局	Mamadou FAYE , Mass NIANG
上下水道局	Tairou NDIAYE , Mounirou BERTHE
地方井戸管理プロジェクト責任者	Kaoussou KABA
カフリン維持管理センター	Bouna DIOUF, Boubacar DIALLO

2) 村落住民

タイバ・ンジャイ村	水管理委員会委員長	Mafall NDIAYE
	水管理委員会会計	Magatte NDIAYE
	JOCV	白石シニア隊員
サーニヤ村	水管理委員会	Pape Ibrahima NDAO
	農民代表	Dame SALL
	女性代表	Fatou SYLLA

3) 第1次短期調査団団員(5名)

(3) ワークショップに係るアプローチ

本ワークショップを実施するにあたり、下記に留意した。

1) PCMの枠組みにとらわれない

事前にPCM関連資料を配布し、ワークショップではあくまで討議に重点を置くことを最優先に考えた。

2) できるだけ自由に討議できる環境をつくる

PCM 特有のルール(言葉の使い方等)についても、こちら側から参加者に細かな注文はつけず、発言に水をささないよう配慮した。他方、住民が MMEH スタッフの前だからと萎縮しないようなワークショップ環境づくりに配慮した。

3) ワークショップにおける官・民バランスの配慮

グループディスカッションにおける官・民参加者のグループ構成等について配慮し、可能な限り官と民との接点を設けるようにして、お互いの認識の相違が浮き彫りになるよう工夫した。

4) 全員参加(女性の参画)

今回のワークショップには村落から 2 名の女性が参加したので、彼女達の発言の場を提供できるように配慮した。

(4) PCM ワークショップ協議内容

行政側と村落住民の参加を得たワークショップでは活発な意見交換が繰り広げられ、効果的な案件形成及び実施時の留意事項等にかかる情報収集に大きく寄与したものとする。具体的な協議内容は以下のとおり。

【討議内容 1：問題分析】：問題分析系図 1

中核問題：水管理委員会の機能・運営不全

(問題整理をしやすいとともに村落住民側の意見が行政側の圧力による影響を受けないよう、行政側と村落住民側に分けて討議を実施した。また、その場で行われた双方の討議結果について、双方で理解した)

〔行政側意見〕

- ・ 村落住民による運営システム機能が不十分である
- ・ 徴収料金管理が不透明である

〔村落住民側意見〕

- ・ 行政側による水管理委員会に対する研修レベルが低い
- ・ 行政側の人員が不足している
- ・ 行政側に女性職員が少なく、女性の立場でものが考えられていない

【討議内容 2：目的分析】：問題分析系図 2

設定された中心目的：水管理委員会の健全な運営が、地域開発の原動力となる

(双方の意見を織り交ぜることを目的とし、行政側と村落住民側の参加者を混ぜ合わせて討議を実施した)

〔討議結果〕

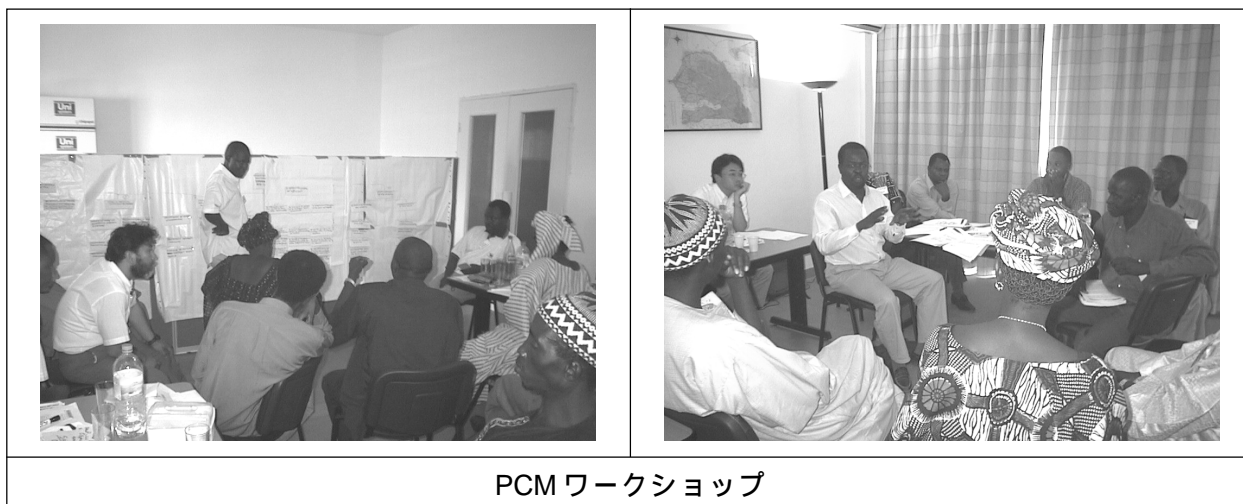
- ・ 行政側からの適切な情報伝達システムを強化する
- ・ 村落住民側の水管理(料金徴収など)に対する理解を深める
- ・ より効果的な水管理手法が確立される
- ・ 健全な水管理委員会が設立される
- ・ 水管理委員会において、女性がしかるべきポストを占めるべきである
- ・ 女性の識字教育など、女性の地位向上に関する活動が行われる

【参加者分析】

ワークショップに参加したメンバー間で、国内の他地域の現状を考慮し、特に特徴的な地域について意見交換を行った。

それら特徴的な地域については、今回行ったワークショップで浮き上がってきた問題とは別の問題を抱えていると予想されることを、プロジェクト実施時に留意しておく必要がある。分析で確認された特徴は以下のとおりである。

- ・ 畜産地区(ルーガ州、サン・ルイ州)
- ・ 塩害発生地区(カオラック州、ファティック州)
- ・ 植生が豊かな州(ジゲンショー州、コルダ州)



(5) 今後の検討事項

ワークショップの結果、プロジェクトを実施するにあたって留意すべき事項としてあげられた点は以下のとおりである。

1) 官、民間、村落住民の役割分担の明確化

例えば、官の陣容、予算規模からすれば、サイトにおいて対応できる活動には限界が

あり、今後劇的な変化は期待できないことを考えれば、住民側の組織強化、民間業者の活用は必要不可欠と考えられる。

2) 行政側内部(中央レベルと地方レベル)における認識の違いの把握及び、それぞれの役割分担の明確化

MMEH内スタッフ間でも、得ている情報や認識が異なるケースが確認されたことから、特に地方スタッフに対する支援はMMEH全体のボトムアップにつながるものと考えられる。

3) 行政側と村落住民側の意見交換サイトの設置

官、民それぞれ言い分があるが、なかなか意見交換する機会もなかった。このため、双方の立場を知ると同時に認識の相違についても理解できる場を設定することは、重要な項目と考える。

4) 女性の参加機会の創出(行政側及び水管理委員会)

日常生活において水と接するのは女性であり、彼女達の意見が水管理委員会において反映されるシステムであることが非常に重要である。ただし、本ワークショップでも、サーニャ村の女性の発言がほとんど聞かれなかったことを考慮すれば、より一層の配慮が必要と考える。

5) ワークショップ、啓蒙普及時に用いる使用言語への配慮(筆記についてはアラビア語も検討項目とされる)

今回のワークショップではフランス語を使用言語としたが、サーニャ村の住民はほとんどフランス語を理解できなかったため、通訳を介しての参加となった。ワークショップの議論は現地語も交えて行ったが、今後予定されている啓蒙普及活動では現地語の採用が1つの鍵といえる。

6) 文化、社会条件(遊牧民と農耕民、塩害など)の違いによる問題分析の必要性

セネガル国内においても各地域の環境はそれぞれ異なるため、各地域の特徴に配慮した活動が求められる。

7) 水管理委員会の運営に関する村落間格差への配慮

ワークショップの結果、組織運営状況の差によって抱える問題の質が明らかに異なることが判明した。そのため、今後行われる活動に関してはある程度村落ごとのレベルに配慮する必要がある。

8) 使用用語の統一

ワークショップにおいて用いられる用語の不統一から混乱が生じたため、今後は用語の統一を図る必要がある。

9) 住民が必要としている情報を事前に調査

村落ごとに組織の成熟度が異なるため、必要な情報の質も異なることがワークショップで判明した。よって、今後啓蒙普及を実施する場合には、住民の欲する情報についてもベースライン調査で確認する。

10) 先進村落の有効活用

ワークショップで確認された村落間のレベルの差は、そのまま村落間協力の可能性へと発展させられる。ベースライン調査で各村の状況を把握したうえで、地理的要素も加味しながら、先進村落を講師役として派遣するなどの手法は、人材不足も解消できる有効な策と考える。

7 - 1 - 2 現地調査報告資料

2001年3月に行われた基礎調査の報告内容を基に、村落給水施設の維持管理体制確立に必要なハードウェアの整備内容の検討を進めるため、プロジェクトの活動候補地となっている維持管理本部、維持管理センター及び対象村落数か所を訪問し、既存施設の規模、内容、稼働状況、老朽化・損傷の現状等を調査した。

さらに、地下水位の測定、簡易水質分析、揚水量・給水量の確認等、施設の維持管理に必要な現場作業を実際に行い、プロジェクト実施時に想定される作業上の問題点を考察した。

(1) 維持管理本部、維持管理センターの施設状況

1) ルーガ維持管理本部

4か所の維持管理センターを管轄する。1949年の設立以来、全国の村落給水施設を対象に、オペレーターの技術指導(現在までに約500人のトレーニングを実施)、給水施設の設置・改修工事などを実施してきている。設立後50年以上が経過して、維持管理本部の事務所、アトリエ、ガレージ、倉庫等の施設は老朽化が激しいが、これまで改修は行われていない。

プロジェクト実施にあたり、ルーガ本部は主要な活動拠点の1つとなることが予想され、その場合は事務所やアトリエなど各施設の改修・拡充を行う必要がある。また、技術トレーニング教材に関しても、効果的な教育ができるような工夫が必要となる。